

令和4年度 第1回 JMAT やまぐち災害医療研修会

と き 令和4年5月29日(木) 13:00～15:30

ところ 山口県医師会6階会議室

[報告:理事 上野 雄史]

JMAT やまぐち災害医療研修会は、山口県医師会内の JMAT やまぐちプロジェクトチームが企画している。今年は、昨年の研修会と同様に、テーマを「被災地 JMAT」とした。昨年度は、主に JMAT やまぐち事前登録者を対象としていたが、被災した際の活動に関し、多くの方々にお考えいただくきっかけになるよう、今回は、事前登録の枠を外し研修の参加を募集した。参加対象は、各郡市医師会災害医療担当役員その他、各郡市医師会災害医療担当事務職員等、各郡市医師会が推薦する者(医師、ロジスティクス担当者)としていたが、山口県薬剤師会、山口県看護協会にもご協力いただき、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、理学療法士、事務職員と多職種にわたり23名のご参加をいただいた。

グループワークでの対面開催ということで、準備の段階から COVID-19 の流行状況が懸念されていたが、幸い県内の陽性者は減少傾向にあり、会場では窓を開放し、マスク着用、密を極力避けるといった感染予防策をとり研修会を開催した。

研修当日、会場ロビーに衛星携帯電話(ワイドスターII)を設置し、研修開始前、休憩時間に希望者に操作体験を行っていただいた。

事前学習

参加者には、研修当日までに e-learning システム(JMAT-e)による事前学習を行っていただいた。内容は、「本部機能(都道府県医師会)」、「山口県における災害医療の状況」、「災害医療用語」、「活動拠点本部(DMAT)」、「情報の共有」、「クロナロジー」、「J-SPEED」の項目で、10～45分の動画による講義を提供した。

グループワーク

参加者を、できるだけ圏域ごとに4～5名の5グループに分け、各グループに2名のファシリテーターを配置した。

想定は大規模な地震と津波による自地域の被災である。被災地 JMAT として活動する意志のある者の、発災直後の行動からチームビルディング、指揮権委譲、実活動、そして撤収の5つの場面を設問とした。進行役の野村先生が被災地 JMAT の位置づけを説明された後、グループで話し合いを開始した。設問ごとに各グループが意見を発表し、野村先生が解説されることを繰り返した。

グループワークに先立ち、野村先生から「被災地 JMAT」の活動の概念について説明がなされた。(要旨)

発災直後、被災地において自衛隊や DMAT が到着する前から、被災地で活動できる状態の医療関係者が行う自律的な災害医療活動の体制づくりをするのが必要である。

【設問1】

あなたは災害時に、被災地 JMAT として活動する意志がある方で、山口県〇〇市で働いている。202X年11月14日(日)発災1日目

午後2時、山口県〇〇市で震度6強の地震が発生。家屋倒壊も散見。約60分後に5m級の津波到達との情報あり。

まず、どのような行動をとるか?

(解説)

- ・自分、家族、職員の安全確保が必要。
- ・強い使命感を持つ医療者は、誰かを救うために

危険な状況に入り込もうとするが、まず自分の身の安全を確保することが大切である。

・常日ごろから、地域のハザードマップ等を確認しておくことが必要である。

【設問2】

午後3時、1mの津波到達。〇〇市の中心部で一部浸水（主に床上浸水）。

午後5時、津波が引いた。

高台に避難しており自身は無事。

次にどのような行動をとるか？

（解説）

- ・自宅や所属医療機関への経路の安全、家族や職員の安否、被害状況などを確認する。
- ・被災地 JMAT として活動する意志があれば、チームメンバーと連絡を取り、所属都市医師会に連絡を取る。
- ・勤務医であれば、所属病院に連絡を取り、指示を仰ぐ。
- ・「JMAT やまぐち活動マニュアル～被災地 JMAT 版～」に発災直後の行動、準備について記載してある。

【設問3】

所属医師会館に連絡したが応答はなく（日曜日発災の設定）、チームメンバーと医師会館に向かった。

午後7時、医師会長はまだ到着しておらず連絡もとれない。医師会館建物に被害はなく、電気は通じているが、水道は使えない。

まず、どのような行動をとるか？

（解説）

- ・医師会長不在のため、チームリーダーが指揮を執ることを宣言し、被災地 JMAT 立ち上げを山口県医師会に連絡する。各関係機関（市役所、消防、警察、保健所等）に連絡し、地域の被災状況の情報を収集する。（「JMAT やまぐち活動マニュアル～被災地 JMAT 版～」に各関係機関を掲載している。）
- ・コンタクトリストを作成する。
- ・活動に必要な資器材を準備する。（各都市医師会にどのようなものが準備されているかの確認も

必要。）

- ・クロノロジーを作成する。
- ・「新型コロナウイルス感染症時代の避難所マニュアル」もある。
- ・EMIS の活用法も確認。
- ・日本医師会のホームページで JMAT 携行医薬品リストが確認できる。

【設問4】

発災2日目。

午前6時、医師会長が会館に到着し、指揮を委ねた。

午前8時、山口県医師会から、DMAT 活動拠点本部が立ち上がった災害拠点病院に参集するよう指示あり（被災地 JMAT として活動できるのであれば）。

どのような行動をとるか。

無事到着したら、想定される活動は。

（解説）

○まずどのような行動をとるか

- ・可能であれば山口県医師会に派遣可能チームを報告する。
- ・災害診療録、紙版 J-SPEED を準備する（マニュアルに掲載）。
- ・必要な資器材を確認する。
- ・災害拠点病院までの経路の安全を確認する。

○活動拠点本部に到着したら

- ・本部あるいは統括 JMAT に挨拶し、救護班登録を行う。
- ・自分のチーム情報を示す。
- ・自チームがこれまでに得ている現場の情報を本部等に伝える。
- ・本部から被災状況などの情報を得る。
- ・活動内容の指示を受ける。

○想定される活動

救護所設営・運営、医療機関支援、避難所スクリーニング、避難所巡回診療等。

○1日の活動を終えて

- ・本部に活動を報告し、夕方のミーティングに参加する。
- ・統括 JMAT、所属都市医師会及び山口県医師会に活動内容を報告する。

- ・活動日報を作成する。

【設問5】

発災4日目。

DMAT活動拠点本部は地域保健医療調整本部に変更され、県内外から支援JMATが参集してきた。被災地JMATは撤収してよいと言われた。

どのような行動をとるか。

(解説)

- ・撤収の意思を本部(保健医療調整本部)に伝える。
- ・活動の引き継ぎを支援JMATやDMATに行う。
- ・本部に撤収の挨拶を行い、所属都市医師会や山口県医師会に撤収の報告を行う。
- ・使用薬剤・資器材の費用請求の準備を行う。
- ・活動報告を山口県医師会に提出する。
- ・自院の診療再開の準備を行う。支援JMATの要請。

設問を提示し、野村先生が状況説明を行った後、グループディスカッションを行い、各グループでホワイトボードに意見をまとめ、代表グループの発表者が発表を行い、野村先生が解説を行った後、今回はふりかえりの時間をとり、グループで意見交換する場を設けた。参加者の多くは、災害医療に関する研修への参加は初めてであった。しかしながら、ファシリテーターの方々の上手なファシ

リテーションもあり、各グループが和やかな雰囲気の中、積極的に活発な意見交換を行っていた。事前学習を行っていただいております、各設問に対する回答は的確なものが多かった。しかしながら、ふりかえりの時間では、各自の地域、医療圏で、災害発生時どのような体制をとることになっているのか、どのようなマニュアルがあるのか、所属医師会がどのような行動をする取り決めになっているのか、災害対策にどのようなツールがあるのか知らないとの意見が多くみられた。実際に、地元が被災地となった際にどのように動くか、また、動けるのかを具体的に考える時間となり、今回、ふりかえりの時間を設けたのは大変有意義であった。この機会を契機に、所属組織、行政が、現在、どのような災害医療体制を構築しており、今、災害が起きたとしたら、どのような活動を行うか、また、有効な災害医療を行うには何が足りないのかを具体的に考え、災害への備えをすることが望まれる。

研修会を開催するにあたり、参加いただいた方々、ご協力いただいたファシリテーターの先生方に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

自動車保険・火災保険・積立保険・交通事故傷害
保険・医師賠償責任保険・所得補償保険・傷害保険ほか

あなたにしあわせをつなぐ

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 代理店
共栄火災海上保険株式会社 代理店

山福株式会社

TEL 083-922-2551